View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Tsukuba Repository

遺伝子の森から筑波の森への帰還

著者	増田 知之
雑誌名	内藤財団時報
巻	103
ページ	44-44
発行年	2019-09
URL	http://hdl.handle.net/2241/00154932

遺伝子の森から筑波の森への帰還

筑波大学医学医療系
准教授
増田　知之

今から遡ること10年，私は「遺伝子の森」の奥深くに足を踏み入れ，明日の医療の役に立ちそうな遺伝子探しに熱中しておりました．その頃の私は，熱意と探求心だけで突っ走る若手研究者で，肝心の滞在費（予算）が早々に底を尽き，森からの撤退を考えていたところでした．そのような厳しい状況の中，この研究助成が決まった時の喜びは，今も忘れられません．

森からの不本意な撤退を免れた私は，その後無事に滞在を完遂し，お蔭様で多くの発見を成し遂げました．2013年に筑波大学に戻ってからも，森で見つけた複数の遺伝子の臨床応用を目指して，研究を重ねてきました．その成果は，その後に発表した30編超の論文および総説として結実するとともに，神経の突起を伸ばす新しい薬剤候補分子の発見にも繋がり，2018年１月には国内特許を取得するに至っております．ここ数年は，学部と大学院の教育および運営業務に忙殺され，研究が思うように進まないもどかしさを感じておりますが，某TVキャラに「ボーっと生きてんじゃねーよ！」と叱られないよう，さらなる研鑽を積みたく思います．

最後になりましたが，多くの成果に繋がる研究をサポートしてくださった内藤記念科学振興財団に心から感謝するとともに，貴財団のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます．